（１）主題名　友情の尊さ〔中学校　２－（３)〕　関連項目〔２－（２)〕
（２）ねらい　真の友情や友情の尊さについて理解を深め，心から信頼できる友だちを持ち，支え合い励まし合って互いに向上しようとする態度を育てる。
（３）　資料名　「大切な友達といつまでも」（出典：豊かな生き方２年　創育）

資料の概要
小学校３年生のとき，ある友だちと話していて「いじめ」という言葉を知った私。仲のよかったはずの友だちに無視をされたり悪口を言われたりしていたようで，それを聞いた私は両親に相談する。両親に「力になってあげたら」と言われ，その友だちと何日か楽しい時間を過ごしていると，いじめている人たちから「あの人すごく性格悪いのよ，…」と言われてしまう。しかし，その時以来その友だちとさらに友情を深めることができた。時々私にもいじめをしようとする人がいたけど，そのうちに「ごめんね」と謝りに来た。これらのできごとで私は，自分をしっかりもつことと「ごめんね」という言葉にどれだけ早く素直になれるかということを学んだ。

（４）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　「友だち」について考える。	○友だちがいてうれしかったことはどんな時だろう。 ・悩みを聞いてくれたとき ・そばにいて話ができたとき	○自由な雰囲気で発表させる。
展開	2　資料を読み，それぞれの立場の気持ちを考える。	○仲のよかったはずの友だちに無視をされたり悪口を言われたりしたときの気持ちはどうだろう。 ・なぜいじめられなければならないのか ・仲良しだったはずなのに悲しい ○いじめていた人たちが謝りに来て友だちが笑顔で許したのを見て，「私」はどのように思っただろう。 ・謝りに来てくれてホッとした ・つらい思いをしたのに，どうして許せるのか不思議である ○両親が言った「友だちの力になる」とはどういうことなのだろう ・一緒にいていじめから守る ・自分で判断し行動する	○仲のよかったはずの友だちが悪口を言わざるを得ない理由に気付かせる。 ○いじめていた人の気持ちを理解させる。 ○いじめていた人たちが，謝りに来たのはなぜか考えさせる。 ○初めはいじめのことを軽く考えていたが，両親の言葉で友だちとの接し方に変化があらわれたことに気付かせる。
	3　友だちとのつき合い方について考える。	◎大切な友だちといつまでも気持ちよくつき合えるためにどうすることが必要なのだろう。 ・相手のことを思いやる ・自分の意見をはっきり伝える ・大事なときには勇気をもつ	○真の友情や友情の尊さについて考えさせる。
終末	4　教師の説話を聞いて感想を書く。	○真の友情や友情の尊さというものは互いに相手を理解し，助け合い励まし合うものであることを考えよう。 ・自分の正しい考えを大切にする ○思いがあれば書いてみよう。 ・自分の意見を書く	○押しつけにならないよう配慮し，実践への励ましとする。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

両親から「力になってあげたら」と言われ，いじめられているＡ子のそばにいることでＡ子を勇気付ける主人公の「私」。かつていじめていた子が謝りに来たりするので，いじめられている子にとっては，力付けられる資料でもある。また，いじめを解決していくために自分がどう行動すべきかを考えていくことのできる資料である。

２　指導過程の工夫

資料を提示するときに，人間関係が複雑でわかりにくいところがあるので図で示した。また，終わりの３行は筆者の決意が述べてあるが，授業では生徒から引き出したかったので，そこを省いて生徒に提示した。

仲がよかったはずの友達が謝りに来たとき，笑顔で許す友だちの気持ちや，謝りに来たときの気持ちを考えることによって，いじめることの醜さや重みを考えさせた。なかには理解することが難しい生徒や自分のこととして考えて深く落ち込む生徒もいたので，全体に発表するのではなく，ワークシートに書くことで自分の思いと向き合うようにしたところもある。その際，「思いがあれば書いてみよう。」と押しつけにならないよう声かけをした。そうすることによって，生徒は素直な気持ちで書いていた。

３　発問の工夫

「なぜ，いじめていた人たちが謝りに来たのか。」という理由は，本文に書いてないので，多様な答えが考えられる発問であった。生徒は，自分の体験や日常生活の思いから答えていた。

４　生徒の反応

友だちといてうれしかったときは生徒にとって考えやすいと思ったが，日常生活の中でそんなことを考える機会がなくかえって答えにくいようだった。

教師の説話は興味深く聞いていた。

友だちのありがたさやよさを感じる生徒がいた。

・いじめられている友だちのそばにいるだけで，力になれることがわかった。

また，いじめをとめたりいじめられている子に寄り添ったり自分にできることを考える生徒が多くいた。

・いじめは怖いけど，いつの日かいじめをやめることができるんだと思った。
・たった一言で人の気持ちは変わる。
・いじめをやめろというのは勇気がいるけど，いじめられる子と一緒にいるくらいならオレにもできると思った。

５　授業後のフォローアップ

大切な友だちといつまでも気持ちよくつきあうために必要なことについて，それぞれ生徒が書いた内容を学級通信に載せて学級の生徒に返していった。

（三原市立第三中学校）